

東京科学大学病院 広域連携型プログラム

Q&A - いただいたご質問にお答えします！



東京科学大学病院 広域連携型プログラムで
全人的医療の視点と高い専門性を兼ね備えた人材になろう！

大学病院ならではの
「基盤力」

1 初期研修1年目： 東京科学大学病院

- ✓ 一症例ごとの丁寧な臨床推論
- ✓ 的確・簡潔なプレゼン能力
- ✓ 希少疾患も含めた鑑別診断力



地域の”最終基地”で鍛えられる
「実践力」 「総合的視点」

2 初期研修2年目： 地域基幹病院

- ✓ 幅広い症例を経験し、
診断力・対応力を強化
- ✓ 一次～三次医療の連携を理解
- ✓ 患者を”生活者”として全人的に
とらえる視座



「総合力 × 専門性」
を兼ね備えた医師へ

3 後期研修以降： 東京科学大学病院 専門研修

- ✓ 全人的医療を基盤に
- ✓ 東京科学大学の
高い専門性を融合



回答：広域連携型プログラム責任者 吉田尚子

Q1: 東京科学大学病院の広域連携型プログラムについて、
改めて教えてください！！

東京科学大学の広域連携型プログラムは、厚生労働省の
施策を受けて2026年度より開始するプログラムで、1
年目は基幹病院である東京科学大学病院、2年目は指定
地域にある協力病院で研修を行います。

これまで連携してきた協力病院のうち、指定地域にある
病院を協力病院としています。たすきがけ研修で培った
指導力と連携体制をそのまま活かし、プログラムIと同
じ充実した環境で学ぶことができます。

Q2: プログラムIとの違いがよくわからなかったので教
えてください！！

研修内容はプログラムIと同様ですが、大きな違いは協
力病院の決定方法です。

広域連携型プログラムでは1年目の7月に病院が決まり、
プログラムIよりも競争の少ない形で協力病院を優先的
に指名できます。希望が重なった場合は、マッチング試
験の成績を元に希望を調整します。

協力病院の枠はプログラムの募集人数よりも多く、
選択の幅には余裕があります。

右上につづく

協力病院の特色は、
プログラム紹介ページのパンフレットを Check!



従来のプログラムIで人気の病院が含まれている中で、
1年目の競争に左右されずにプログラムIよりも優先的
にその病院を指名できるという点や、早く決まるので
2年目の準備をしやすく、待遇（給与・住居など）が充
実している病院が多いというメリットがあります。協力
病院によっては半年間の研修も可能で、キャリアプラン
に合わせた柔軟な選択ができます。当プログラムの協力
病院の特色について紹介のパンフレットを別途作成して
いますので、ぜひ目を通してみてください。

Q3: 地域でできる経験については、わざわざ遠方まで行
かなくても首都圏の病院の方が症例数も多く、より実践
機会があるのではないかと考えてしまいます。

症例数の不足を感じることはまずなく、研修医同士で経
験が分散しないため実践機会が豊富です。患者さんの経
過を最後まで追える点も都心では得にくい特徴で、地域
ならではの経験が数多くあります。

特に大きなメリットは「生活と医療のつながり」を学べ
ることです。首都圏では背景が見えにくい一方、地域で
は診療の継続の中で生活や地域資源との関わりを実感で
きます。医療と生活は想像以上に密接に結びついていま
す。それを早い段階で学べることは大きな財産です。
もちろん、ただ遠方に行けば経験できるというのではな
く、きちんとした指導の下で安心して学ぶことが重要
です。当プログラムの協力病院は教育体制が整い、丁寧
な指導を受けられるので安心です。

大学病院と市中病院のたすきがけに加え、都市と地域と
いう2つの環境を経験することで、将来主治医として方
針を決める立場になったとき、こうした広い視点が患者
さんに信頼される診療の土台になると考えています。